

「第 2 期いきいき市民健康プラン」に基づく事業

平成 28 年度 仙台市の主な取り組み

健康福祉局健康政策課

平成 23 年度のプラン開始より約 5 年が経過し、「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針（健康日本 21（第 2 次）平成 24 年 7 月 厚生労働大臣告示）」も勘案しつつ、プランの重点分野に沿って市民の健康づくりに取り組んでいる。

なお、今年度実施した市民健康意識調査等を元に、平成 29 年度には、中間評価と後期計画の策定を行う予定としている。

重点分野 1 活力ある青・壮年と元気な高齢期を目指す生活習慣病予防

生活習慣病などの疾病を早期に発見し、早期治療の勧奨と必要な保健指導を行い、生涯にわたり市民が自ら健康づくりに取り組める環境整備や啓発を進めている。

◆各種健康診査の実施状況

◇市民健康診査：基礎健康診査／各種がん検診／骨粗鬆症検診／歯周病検診（p8 参照）

◇国民健康保険事業：特定健康診査及び特定保健指導

<市民健康診査及び国保特定健康診査>

健診の種類	対象者	今年度受診者数 (H28 年 11 月 末現在の集計 値)	【参考】 昨年度同時期 (H27 年 11 月末) の受診者 数
基礎健診	35～39 歳、 35 歳以上の生活保護受給者 75 歳以上	33,771 人	32,508 人
国保特定健診	40～74 歳の仙台市国保加入者	60,243 人	62,833 人
胃がん検診	35 歳以上	28,855 人	31,650 人
大腸がん検診	40 歳以上	71,465 人	74,917 人
肺がん・結核健診	40 歳以上	74,946 人	75,801 人
乳がん検診	30 歳～39 歳（視触診） 40 歳以上（マンモグラフィ併用）	5,519 人 29,195 人	5,283 人 29,587 人
子宮頸がん検診	20 歳以上	42,799 人	35,369 人
前立腺がん検診	50 歳、55 歳、60 歳、65 歳	1,590 人	1,777 人
骨粗鬆症検診	40 歳、50 歳	2,021 人	2,192 人

<新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業>

下記の対象者に対し、乳がん検診と子宮頸がん検診の検診費用が無料となるクーポン券と検診手帳を送付し、がん検診の受診促進とがんの早期発見の啓発を行った（国

補助事業)。

・子宮頸がん検診クーポン対象者及び40歳の乳がん検診クーポン対象者のうち、未受診者に対して、はがきによる受診勧奨を実施した。(44,835人)

検診名	対象者数	対象者
子宮頸がん検診	25,634人	20歳の女性 25歳・30歳・35歳・40歳の女性のうち未受診者
乳がん検診	25,370人	40歳の女性 45歳・50歳・55歳・60歳の女性のうち未受診者

1. がん予防・早期発見に向けた企業や関係機関・地域関係団体と連携した啓発

(1) 企業との連携によるがん検診啓発・受診促進

「がん啓発及びがん検診受診率向上のための取り組みの連携に関する協定」を締結している企業名17社のロゴ入りクリアファイルを作成し(19,000部)、企業の窓口等で配布し市民への啓発を行った。

(2) 「がん検診」啓発活動

① 仙台市消防音楽隊「杜の都ふれあいコンサート」(5月・6月・9月・10月の計4回)

開催場所：サンモール一番町ヤマハ前、藤崎前、仙台パルコ前

② 「ベガルタ仙台レディース」ホームゲームでの啓発(10月16日)

③ 「仙台89ERS」レディースデーでの啓発(11月6日)

④ 成人式にて子宮頸がん検診の啓発(1月8日)

⑦ 「仙台ベルフィーユ」仙台大会での啓発(1月28日、29日)

(3) ピンクリボンフェスティバル2016の開催

10月の乳がん月間に民間企業やボランティア団体との協働により「ピンクリボンフェスティバル2016 仙台」を開催した。街頭キャンペーンやピンクリボンスマイルウオークを通じて、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さ、乳がん検診受診の大切さを呼びかけた。今年度は、藤崎前から仙台駅前までをピンク色に染める100名大行進をするなど新たな取り組みを行った。



- ・街頭キャンペーンを実施(10月19日)
- ・オープニングセレモニー&街頭キャンペーン&100名大行進
(10月1日、サンモール一番町商店街、藤崎前他)



2. 生活習慣病の発症予防と重症化予防の取組

(1) 子育て世代・働き盛り世代への健康づくりに関する啓発

- ・ 仙台 89ERS レディースデー（11月6日）において、女性を対象に啓発を実施。
- ・ P T A フェスティバル（11月6日）において、「塩エコ」、「メタボリックシンドローム、糖尿病」に関するクイズを通し、生活習慣病予防について啓発。
- ・ 仙台市成人式（1月9日）において、20歳を迎えた成人に向けて飲酒や食生活に関する啓発を実施。

(2) 特定健診（市国民健康保険加入者）・基礎健診受診者に対する保健指導

受診結果が「要医療判定（血圧、血糖、脂質）かつ未治療」の方に対する受診勧奨（文書及び電話や訪問）の実施（9月～継続中）。

(3) 仙台市民の健康課題や、生活習慣病予防対策の検討会議を区保健福祉センターで開催

- ・ 保健指導部会：「要医療判定（血圧、血糖、脂質）かつ未治療」の方に対する効果的な受診勧奨や保健指導を実施するため、事例を通じた研修会を実施。
- ・ 健康課題部会：仙台市民の健康課題を整理し、広く市民に健康づくりや生活習慣病予防に取り組んでもらうための啓発媒体を作成中。

(4) 各区・総合支所等における生活習慣病予防講座等の開催

区ごとに、町内会や活動団体、職域との連携などによる健康教育の実施。

3. 被災者の健康支援の強化

(1) 復興公営住宅等の新たな環境で生活を再建した被災者、一部借上げ民間賃貸住宅に入居する被災者に対し、個別訪問などによる健康支援を継続して行っているほか、健康相談や健康教育を実施している。

- ・ 被災者への健康支援件数 9,248件（12月末現在）
- ・ 被災者への健康講座・健康相談開催回数 186回（12月末現在）

(2) 復興公営住宅入居者が新たな地域で安定した生活を送ることができるよう、町内会や区まちづくり推進課、区社会福祉協議会、地域包括支援センターなどと連携してコミュニティ形成支援を行っている。

重点分野2 気づく、つながる、支える心の健康づくり

心の健康課題が多くみられ、自殺者数が多い働き盛りの年代を対象とした啓発を行うとともに、近年増加傾向にある若年層への啓発について検討を行っている。

また、震災による生活環境の変化等により、被災者のメンタルヘルスの悪化やストレス障害の長期化も懸念されることから、引き続き、見守り支援や生活再建と連動した被災者の心のケアを含む健康支援に、重点的に取り組んでいる。

1. 若年層世代・働き盛り世代に届く情報の発信

(1)心の健康・心のケアに関する啓発

- ①各区保健福祉センターにおける講演会や仮設住宅におけるミニ講話の実施。
- ②仙台市精神保健福祉総合センターの広報誌「はあとぼーと通信」による啓発。
- ③20歳代の若年者に対する啓発のための検討会「YELL」の開催及び啓発活動の実施。
 - ・検討会開催回数：9回 啓発活動：7回（12月末現在）
- ④自殺予防週間（9月10日～16日、3月にも実施予定）
 - ・市立保育所41か所に仙台市心の健康づくりキャラクター「ここまる」ぬいぐるみとリーフレット入りポケットティッシュを20個ずつ設置
 - ・各区・総合支所におけるパネル展示等
- ⑤自殺対策強化月間（3月）の活動（予定）
 - ・各区・総合支所におけるパネル展示等のほか、街頭などにおけるリーフレット入りポケットティッシュの配布や公用車への啓発マグネットシート貼付等を予定。
 - ・本市で制作したメンタルヘルス普及啓発動画を映画館で上映予定。



仙台市こころの健康づくり

(2)職場におけるメンタルヘルスの推進

- ①働く世代の心の健康づくりリーフレット「誰かに話してみませんか？」を、働く市民の健康づくりネットワーク会議等を通して広く配布し、啓発を行っている。（12月までの配布実績 約1,108部）
- ②全国健康保険協会（協会けんぽ）宮城支部会報への寄稿
- ③「職場のこころの健康づくりセミナー」の全国健康保険協会（協会けんぽ）宮城支部共催（9月9日）
 - テーマ：「中小企業のための職場のメンタルヘルス対策」 参加者：194人

2. 相談窓口・相談体制の充実強化

仙台市こころの絆センター（仙台市自殺予防情報センター）や庁内外関係部局・機関と連携した情報の共有と相談体制の強化を図っている。

(1)ゲートキーパー養成研修の開催

市職員や地域包括支援センターなどの地域の相談窓口職員、理美容関係者などの職域等を対象として開催。開催回数：5回、参加者延べ：244人（12月末現在）

(2)「無料法律相談とこころの相談会」の開催（月1回）

弁護士による専門相談とカウンセラーによる心の相談を一体的に実施。

- ・相談件数 132件（法律相談：84件 心の相談：48件）（12月末現在）
- (3)「生活困りごとと、こころの健康相談会」の開催（定例月1回・キャンペーン年2回）
 弁護士・司法書士による生活の困りごとに関する相談とあわせて、精神科医・保健師・臨床心理士・精神保健福祉士等によるこころの健康に関する相談を実施。
 ・相談件数 定例23件、 キャンペーン11件（12月末現在）
- (4)「仕事とこころの相談会（夜間）」の開催
 勤労者も相談しやすい平日の夜間に、仙台駅に隣接するアエルを会場に相談会を実施。
 弁護士・臨床心理士・司法書士が、パワハラ・職場の人間関係等の様々な相談に対応している。
 ・開催回数：8回 相談件数：17件（12月末現在）
- (5)自死対策の総合的な支援体制の整備
 仙台市こころの絆センター（仙台市自殺予防情報センター）の運営および自殺対策連絡協議会の開催により、地域における関係機関のネットワーク強化等、自死対策の総合的な支援体制の整備に取り組んでいる。

3. 震災後のこころのケアに関する啓発と支援の強化

- (1)震災に伴う子どもの心のケア
 各区保健福祉センターにおける、子どものこころの相談室開催と幼児健康診査での「こころとからだ問診票」による聞き取り実施。
- (2)各区保健福祉センターや精神保健福祉総合センターなどによる、仮設住宅入居者や復興公営住宅入居者などに対する訪問や面接・電話などによる個別支援の継続実施。

重点分野3 生きる力を支える、健康的な食生活と歯・口の健康づくり

<< 健康的な食生活 >>

市民が食に関する知識や選択する力を身につけ、健康的な食習慣の実践につなげることができるよう、食育推進事業と連携して様々な年代に啓発を行っている。特に、青年期・子育て世代の食への関心を高め、健康的な食習慣の実践を促すための取り組みを実施している。

1. 健康的な食生活について関心を高める働きかけ

(1)子育て世代へ対する啓発活動

子育て世代が集まるイベントにおいて、子育て世代が食習慣を見直すきっかけとなるような情報を積極的に発信している。

①第13回仙台市PTAフェスティバルへの参加（11月13日）

生活習慣病予防コーナーとしてブースを出展

- ・「塩エコ」クイズ：241名
- ・「糖尿病」クイズ：80名
- ・血圧測定・健康相談：64名
- ・リーフレット配布：388部



(2)若い世代へ対する健康づくり・食育推進体制整備

大学生が主体的に健康づくりや食育に取り組む仕組みづくりを行っている。

①大学生の食育プロジェクト

平成22年度より、市内の管理栄養士養成課程に在籍する学生による食育推進プロジェクトを進めており、今年度は、「塩エコ」をテーマに、「男子編」「女子編」「子育て世代編」の3種類のリーフレットを作成し、若い世代や子育て世代へ向けた啓発活動を行った。(プロジェクト参加学生10名)。

- ・企画会議(月1回程度 今年度計8回実施予定)
- ・大学祭、オープンキャンパス、成人式、PTAフェスティバル等でリーフレットを配布。



(3)食育月間(6月)における各区の取り組み

- ・各区・総合支所を会場にパネル展示、資料・レシピ等配布、庁内放送
- ・児童館、児童センターにて食育関連ポスター掲示、資料配布
- ・専門学校と連携した、学生への講話、調理実習、栄養相談等の実施
- ・その他期間中に各種母子保健事業、健康教育、健康相談事業で啓発資料配布

2. 食に関して体験する機会を増やす取り組み

各区保健福祉センターが、市民センターや地域団体と連携して、地元の食材を使った調理実習や農業体験を行うなど、地産地消の推進に取り組んでいる。

3. 健康づくり実践のための環境整備

(1)「食で健康づくりサポート店」登録推進事業

健康に配慮した食事選択の参考に、栄養成分表示やバランスメニュー、野菜たっぷりメニュー、塩エコ(塩分控えめ)メニューのいずれかを提供する飲食店を「食で健康サポート店」として募集・登録し、市民に情報提供することにより、市民の健康づくりを支援している。



参加店舗数：25店舗(11月末現在)

<< 歯・口の健康づくり >>

市民のライフステージごとの特性や課題に応じた歯科疾患予防対策に取り組んでいる。

中でも、妊娠期の歯と口の健康増進と乳歯萌出期からの歯と口の健康づくり推進体制を整備し、子どものむし歯の地域格差の解消に努めることとしている。

1. 3歳児カリエスフリー85プロジェクトの推進

(1) 乳歯萌出期から始めるむし歯予防の取り組みの重要性を保護者や地域に普及啓発

乳児健診登録医療機関と連携し、8-9か月児健診時（受診率9割超）に、食習慣の留意点や歯みがき方法、フッ化物歯面塗布等の記録欄を掲載した「せんだい★でんたるノート」等を配付し、小児科医による保健指導を実施するとともに、かかりつけ歯科医での定期予防管理を受ける習慣の定着を推進している〔平成27年4月より開始〕

(2) 各推進主体が開催する研修会等において、乳幼児期の歯と口の健康づくり支援のあり方を共有

① 3歳児カリエスフリー85プロジェクト事業説明会

(11月9日、11月15日) 仙台歯科医師会主催

講話：「小児へのう蝕処置の考え方」

講師：東北大学小児発達歯科学分野教授 福本 敏先生

参加者数：歯科医師と歯科医院スタッフ 96人

② 各区保健福祉センター主催の「幼児健診懇談会」等

において、地域の小児科医、歯科医師の参画を得て、プロジェクトの目的や具体策について共通理解を図った。



(3) プロジェクトの活動状況等を広く発信し、地域全体で乳幼児の歯と口の健康づくりを推進

各区における地域健康教育や啓発イベント等において、乳児の保護者等に対しプロジェクトの取り組みを啓発した他、子育て世代に役立つ情報誌等に、プロジェクトに係る記事を掲載した。

2. 幼児期後半からのむし歯予防対策の推進

(1) 保育所・幼稚園における歯科保健活動の推進

① 永久歯のむし歯予防対策として、平成16年度

より保育所・幼稚園等におけるフッ化物洗口導入支援事業を実施している。事業開始以降、経年的に参加率は向上しており、平成23年より継続実施園に対する助成事業も実施している。

更に、リニューアルしたフッ化物洗口マニュアル

(平成26年3月)に基づき、取り組みの普及・拡大を支援している。

- ・フッ化物洗口実施施設数 152施設
- ・施設実施率 60.8%（公立施設は100%実施）
- ・フッ化物洗口実施支援に係る施設訪問 167件
- ・保育所・幼稚園歯科健診集約事業関連訪問 258件



3. 歯周病予防のセルフケア能力の向上支援と専門家によるケアの普及啓発

成人歯科健診の受診率向上とフォローアップの充実強化を図り、青年期・壮年期・高齢期の歯周病予防対策推進の体制整備を図っている。

健診名	実施期間	対象者数	対象者
歯周病検診	7～11月	66,842人	30歳・40歳・50歳・60歳・70歳の市民
20歳のデンタルケア	7～11月	10,858人	20歳の市民

4. 妊産婦の歯と口の健康増進と生まれてくる子どもの健康の基盤づくりの推進

各区及び総合支所で実施していた妊婦歯科健康診査を平成28年8月より、(一社)仙台歯科医師会に委託し、「受診券方式」による個別健診として実施している。

妊婦が身近な医療機関で歯科健診と保健指導を受けられるようになり、受診者の増加につながっている。また、各推進主体の懇談会や研修会等において、「妊婦歯科健康診査マニュアル(H28年4月作成)」を踏まえた、妊娠期の歯と口の健康づくり支援のあり方を地域関係者間で共有した。

- ①宮城県産婦人科医会 仙台南・北ブロック合同出向懇談会
宮城県産婦人科医会主催(9月28日)

講話:「妊娠期の歯と口の健康づくり推進について」

講師:東北大学予防歯科学分野教授 小関 健由先生

参加者数:産婦人科医師 65人



- ②妊婦歯科健康診査実施医療機関登録事前講習会

仙台歯科医師会主催(4月26日・27日, 5月12日・14日, 11月30日)

講話:「妊婦歯科健診事業内容及びご留意点について」

講師:東北大学予防歯科学分野教授 小関 健由先生

講話:「妊婦歯科健診時の注意事項と母子手帳から健康状態を読み取るコツ」

講師:東北大学ウィメンズヘルス看護学分野 准教授 跡上富美先生

参加者数:歯科医師と歯科医院スタッフ 357人

5. 歯と口の健康づくり啓発活動の充実

乳幼児から高齢者まで、生涯を通じて歯と口の健康づくりに関心を持ち、むし歯や歯周病予防、口腔機能の維持に向けた取り組みが行えるよう、周知啓発活動を展開している。

(1)歯と口の健康週間6月4日～10日

- ①市民のつどい実行委員会主催「歯と口の健康週間市民のつどい」(6月4日)

参加者数:来場者数 614人

- ・各区保健福祉センターにおける取り組み:参加者数 6,331人



(2)第 13 回 P T A フェスティバル (11 月 13 日)

歯と口の健康づくりコーナーとして、(一社) 仙台市歯科医師会、東北大歯学研究科との共催でブース出展

[参加者数] 750 人

[内 容] ・歯とお口の健康チェック

- ・位相差顕微鏡による歯垢の観察
- ・むし歯予防パネル展、歯の健康クイズ
- ・フッ化物洗口体験他、



(3)歯と口腔の健康づくり月間 11 月

- ・各区保健福祉センターにおける講演会、健康づくり教室、仮設住宅での啓発活動他
参加者数 2,939 人

重点分野 4 防煙・禁煙・分煙のまちづくり

たばこによる健康影響から市民を守り、健康で快適に過ごすことのできる「受動喫煙防止」のまちづくりのため、受動喫煙防止の環境づくりや成人の喫煙率の減少・次世代の健康の確保に向けた取り組みを進めている。

1. 受動喫煙防止対策の推進

(1)各種ガイドラインに基づいた対策の推進、受動喫煙の害・COPD (慢性閉塞性肺疾患) についての周知・啓発

①平成 26 年 3 月に策定した「仙台市受動喫煙防止対策ガイドライン」、平成 26 年 9 月に働く市民の健康づくりネットワーク会議と連携し策定した「職場における受動喫煙防止対策ガイドライン」に基づき、受動喫煙防止対策の必要性や、受動喫煙防止対策の望ましい姿等についての周知・啓発を行った。

②世界禁煙デー (5 月 31 日) 関連事業 (パネル展、市立施設・医療施設・教育施設・飲食店・旅館等でのポスター掲示、ラジオ放送による啓発、禁煙相談会など)

③仙台市薬剤師会「薬物乱用防止・防煙キャンペーン」(全国健康保険協会宮城支部と連携、11 月 6 日)

(2)「受動喫煙防止宣言施設」の登録推進

宮城県、全国健康保険協会宮城支部と連携し、お客様や従業員の健康に配慮し、施設・事業所の敷地内または建物内の禁煙に取り組んでいる施設や事業所を「受動喫煙防止宣言施設」として登録している。

・登録施設数 861 件：うち仙台市所在の施設 418 件(平成 28 年 12 月末現在)

(3)市立施設の禁煙化

平成 26 年 3 月に策定した「市立施設等における受動喫煙防止のための基本方針」に基づき、市役所本庁舎・分庁舎・北庁舎や、各区・総合支所庁舎等の市庁舎をはじめとして、市立施設の禁煙化の取り組みを進め、市庁舎については、平成 27 年 4 月 1 日より庁舎内禁煙とした。(市役所本庁舎については工事の関係から平成 27 年 7 月より実施)

2. たばこをやめたい人への禁煙支援

- (1) たばこをやめたい人への禁煙支援（平成 28 年 12 月末現在：延 145 回、52 人）
- (2) 世界禁煙デー関連行事（パネル展、健康講話、禁煙相談会など）や地域・職域連携事業、市政だよりやホームページ等の啓発媒体を活用し、禁煙支援や禁煙方法・場所等に関する情報提供

3. 若い世代や子育て中の親への啓発強化・喫煙防止

- (1) 母子保健事業と連携し、啓発リーフレット等を活用した、妊産婦およびその家族の禁煙支援・再喫煙防止の指導（平成 28 年 12 月末現在の啓発リーフレット配布数：6,850 枚）
- (2) 学校保健（幼稚園、小中高等学校、専門学校、短期大学・大学）や児童館と連携し、世界禁煙デーを中心に、啓発や情報提供。
- (3) 将来の喫煙者を増やさないための喫煙防止教育を実施（平成 28 年 12 月末現在：9 校・11 館、20 回、1,231 人）

重点分野 5 日頃から一人ひとりが取り組む感染症予防

感染症の蔓延や重症化を防止するため、感染症に関する正しい知識の普及・啓発に努めるとともに、定期予防接種の接種勧奨に取り組んでいる。

また、エイズや性感染症、ウイルス性肝炎については無料検査を実施し早期発見に努めている。

1. 感染症に関する正しい知識の普及・啓発とタイムリーな感染症流行情報の提供

- (1) 仙台市感染症メディカル・ネットワーク会議で、最新の感染症の流行状況などについて情報を共有し、対応方法について協議。（仙台市感染症メディカル・ネットワーク会議構成員：仙台市医師会・関係医療機関・東北大学・仙台市・宮城県等）（7 月 25 日）
新型インフルエンザを想定し、市立病院への患者搬送訓練を実施。（12 月 26 日）
- (2) 市民向けにデング熱やジカウイルス感染症など蚊媒介感染症に関する流行状況、予防法や蚊の発生源対策についてホームページや講演会の開催などにより情報提供。（市民医学講座 7 月 21 日）
市内の主な公園等（6 か所）において蚊の生息状況調査を実施（5 月～10 月）し、その結果を併せて公表。
- (3) インフルエンザ予防ポスター（咳エチケット、手洗い励行）を作成（東北大学・仙台市医師会と連携）し、医療機関、学校及び社会福祉施設等 1,600 施設に配布。（1 月 4 日）

2. 予防接種事業の推進

- (1) 子育て支援の観点から里帰りなどで県外において定期予防接種を受けた者への接種費用助成制度を開始。（平成 28 年 12 月末まで 130 件）
- (2) 乳幼児の B 型肝炎ワクチンが平成 28 年 10 月から定期予防接種となったことに伴って、保護者等への個別通知により勧奨を実施。（3,975 件）
- (3) 高齢者肺炎球菌予防接種対象者のうち、今年度 65 歳となる方へ個別通知により勧奨を

実施。(13,765件)

- (4) 麻しん風しん予防接種の勧奨を小学校に加え、新たに幼稚園・保育所を通じて、また、二種混合予防接種の勧奨を小学校を通じて実施。
- (5) 個人ごとの予防接種履歴を把握することで未接種者への効果的な接種勧奨を行うため平成29年9月稼働を目指し、予防接種台帳システムを整備中。

3. 検査体制や相談・カウンセリングの充実

- (1) 世界エイズデーキャンペーンとして仙台駅構内でセンダイガールズプロレスリング選手とともにHIVの正しい知識、検査の必要性、イベント検査会について啓発。(11月27日)
- (2) 青葉区役所での夜間検査において6月から梅毒検査を追加し、通年でHIV・クラミジア・梅毒の3項目検査を実施。また、平成29年1月からは青葉区役所での休日検査(HIV即日検査)において、梅毒即日検査を追加。
- (3) 市民協働事業によりNPO団体と連携し、平成26年度から開設しているインターネットサイト「仙台HIVネット」やスマートフォン・アプリ向けの広告など、インターネットを活用したHIV検査の普及啓発。
- (4) HIV・性感染症検査実績(平成28年12月末まで)
 - ・ HIV抗体検査1,189件、梅毒検査556件、クラミジア検査123件